

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ダイエー、食特化の中規模新業態 神戸に関西1号店開業」
- 2) 「ファミマでカーシェア、タイムズ24と提携」
- 3) 「IKEA、熊本市出店へ 今秋にもオープン」
- 4) 「アルツハイマー予防に効果的な“MIND食”とは？」

1) 「ダイエー、食特化の中規模新業態 神戸に関西1号店開業」

ダイエーは27日、食に特化した中規模店の新業態「フードスタイルストア (FSS)」の関西1号店として、「ダイエー神戸三宮店」を開いた。FSSとしては6月の赤羽店 (東京・北) に続き2店目。チーズやワイン、オーガニック商品の専門売り場のほか、目の前で調理する総菜コーナーなどを設けた。30-40代の集客を強化し、食品売上高で改装前の27%増をめざす。

地下2階から地上9階までのうち、1階、地下1階、地下2階の3フロアを全面改装した。食品は1万2800品目と16%増やした一方で、生活用品などは減らした。店舗全体の年間売上高は75億円と改装前に比べ13%増をめざす。

1階には植物由来の化粧品やオーガニック食品など約1500品目を集めた「ボタニカルショップ」を導入した。酒売り場には650品のワインを入れたり、地元の兵庫県の地酒や加工品を集めたりした。ワイン売り場にはナチュラルチーズなどをその場で食べることができるイートインスペースを初めて設けた。

話題になった赤羽店は、これまでのダイエーから大きくイメージチェンジされていた。高齢化が進む日本では高齢者にやさしい店づくりがもちろん必要だとは思いますが、これからの日本を支える30-40代をメインターゲットに据え、それらの人たちの消費意欲を掻き立てる提案型店舗というのがもっと求められていくと思う。

2) 「ファミマでカーシェア、タイムズ24と提携」

ファミリーマートとタイムズ24は、コンビニの駐車場を活用したカーシェアリング事業を始める。11月にも第1弾のサービス拠点を設け、3年後をメドに全国100店に広げる。ファミマは駐車場の有効活用と来店機会の拡大、タイムズは需要が急増しているカーシェアの拠点充実につなげる。

両社はコンビニの駐車場を活用したサービスで総合的な業務提携を結ぶ。タイムズはカーシェア事業の国内最大手。カーシェア専用車を置く拠点は全国に7000以上ある。ファミマの駐車場に同拠点を設置し、専用車を配置する。

第1弾として11月をメドに神奈川県内のコンビニに導入する。その後も住宅街や観光地、新幹線の停車駅の近くなどカーシェアの利用者が多いエリアの店舗を中心に増やしていく。導入したファミマの店舗は駐車場の賃貸料などを受け取る。

また、両社はカーシェアだけでなく駐車場全体の有効活用でも連携する。観光地に近いコンビニなどでは店舗を利用しない人の迷惑駐車が多い。タイムズが運営する他の駐車場と同様

のシステムを用いて、店舗利用者以外に課金できるようにする。タイムズが管理運営するため、店舗の負担が抑えられる。まず、全国の30店舗で導入する。ファミマは今回の提携をきっかけにして、幅広い分野の自動車関連サービスを提供していきたい考え。タイムズの親会社であるパーク24グループ全体との連携も視野に、コンビニ店舗でのレンタカー車両の受け取りや返却などのサービスも検討していく。

時短・手軽・身近というキーワードでつながるコンビニとカーシェアがタッグを組めば、サービスの普及が進みその内容もさらに充実していくと思う。立地にもよると思うが、移動に車が必要な郊外・地方こそ敷地も余裕があると思うので、提携のメリットは大きいのではないかな。

3) 「IKEA、熊本市出店へ 今秋にもオープン」

イケア・ジャパンが、熊本市東区御領に「IKEA熊本」の出店を計画していることが13日、分かった。比較的小規模な店舗で商品の注文や受け渡しをする「ピックアップポイント」という国内初の業態で、今秋にもオープンする見通し。関係者によると、IKEA熊本は、熊本インターチェンジ南西側で国道57号沿いの商業エリア「熊本インタープラザ」の一角。雑貨店などが入っていた鉄骨平屋建ての空き店舗（約1500平方メートル）を活用するという。ピックアップポイントは、イケアグループがカナダでも計画。同国では、小さなショールームがある店舗でオンラインシステムを使って商品を注文。一部の在庫品を除き、他の店舗から商品を取り寄せるなどのサービスを想定している。

熊本での具体的な計画は明らかになっていないが、同様の店舗を展開するとみられる。イケアジャパンは国内で8店舗を展開しており、2014年8月期の売上高は771億円。九州では12年4月、福岡県新宮町に「IKEA福岡新宮」がオープン。県内外からの来場者があり、高いデザイン性や手ごろな価格帯の家具や雑貨が支持を集めている。

IKEAは店舗が少ないので気軽に立ち寄れる店ではなかったが、今後このような小型店が広まることによって手が届きやすくなるだろう。ニトリのように大型商業施設の中にテナントとして展開する日もくるかもしれない。

4) 「アルツハイマー予防に効果的な“MIND食”とは？」

「マインド（MIND）」と名付けられた食事法が関心を集めそうだ。米国ラッシュ大学がかねて注目しており、また改めてそのポイントをまとめている。マインド食は、「地中海式食事法」と高血圧を防ぐ「ダッシュ（DASH）」という食事を組み合わせた食事法。研究グループは今年3月に、マインド食はアルツハイマー病の発症リスクを下げる可能性があるとして報告している。さらに、同大学の研究グループは、2015年6月にも認知症の国際誌であるアルツハイマーズ・アンド・デメンティア誌オンライン版に論文を寄せている。マインド食を厳密に守った人の方が、あまり守らなかった人よりも、認知機能の低下を遅らせられる可能性があるというものだ。

研究グループは、「ラッシュ記憶老化プロジェクト」に参加した、認知症でない高齢者960人（平均年齢81.4歳）を対象に、約5年間にわたって認知能力の変化を調べた。対象者は年1回、5つのタイプの記憶力や対応能力について認知能力テストを受けた。内訳は、「エピソード記憶」「ワーキングメモリ」「概念記憶」「視空間記憶」「知覚速度」。さらに、食事アンケートで、マインド食に従った程度についても聞いている。集めたデータを統計学的に解析。認知能力の変化とマインド食との関連性を調べた。マインド食はテストした5つの全ての認知能力の低下を遅らせる効果があると分かった。マインド食を厳密に守った人では、あまり守らなかった人よりも、認知機能が7.5歳も若くなるという結果となっている。

認知機能の低下は、認知症を予防する観点からも大切になる。研究グループによると、アルツハイマー病は現在、米国で死因の第6位になっており、認知症全体の60%-80%をアルツハイマー型認知症が占めている。認知症の発症を5年遅らせると、病気に伴うコストと病気の発症率を半減できる効果もある。本人にとっても、国全体の問題としても、食事から始めて認知機能の低下を予防する意味は大きい。

そもそもマインド食は、脳に健康的な10の食品を重視した食事となる。日々の生活で意識するとよいのではないだろうか。

- ・ 1日3食で全粒粉を取る。
- ・ 毎日緑の葉物野菜やその他の野菜を取る。
- ・ 1日おきに、グラス一杯のワイン、ナッツ入りのおやつ、豆類を取る。
- ・ 週に1回、魚を取る。
- ・ 週に2回、鶏肉とベリーを取る。

特にブルーベリーは脳に良く、イチゴも良いと見られている。

脳に不健康な食品は制限するところもポイントになる。

- ・ バターは1日にスプーン1杯以下。
- ・ スイーツ、菓子パン、チーズ、揚げ物、ファストフードは1週間にどれかを1食まで。

マインド食が脳に与える良い影響について、今後さらに科学的な検証を続けていきたいと研究グループは述べている。気にしておきたい食事法だろう。

高齢化社会の日本ではとくに重要なニュースだと感じた。人々の健康志向がいっそう高まる現代において、今後様々な食の提案として展開が期待できるだろう。情報があふれる中、どのようにわかりやすくかつ有効的に伝えていくかがポイントになると思うが、スーパーでも新たなコーナーとして提案しても面白そうだ。